

日本古生物学会 第 173 回例会

2024年1月26日（金）～1月28日（日）

東北大学 青葉山北キャンパス

* * * * * 1. プログラム 概要 * * * * *

1月26日（金）会場：東北大学青葉山北キャンパス A会場

【13:00-17:00】シンポジウム「琉球列島の地質と生物相 成立から現在に至るまで」・ii

【18:30-20:30】懇親会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・iii

1月27日（土）会場：東北大学青葉山北キャンパス A-C会場

【9:30-11:30】会長講演，特別講演（A会場）・・・・・・・・・・iii

【10:45-11:45】学術賞受賞記念特別講演（A会場）・・・・・・・・・・iii

【13:00-14:00】一般講演 ポスター発表コアタイム（ポスター会場）・・・・iv

【14:15-15:30】一般講演 口頭発表1（A-C会場）・・・・・・・・・・vi

【15:45-17:15】一般講演 口頭発表2（A-C会場）・・・・・・・・・・vi

【17:30-17:45】ポスター賞表彰式（A会場）・・・・・・・・・・vii

1月28日（日）会場：東北大学青葉山北キャンパス A-C会場

【9:30-10:45】一般講演 口頭発表3（A-C会場）・・・・・・・・・・vii

【11:00-12:15】一般講演 口頭発表4（A, B会場）・・・・・・・・・・viii

【13:30-14:30】化石友の会イベント 普及講演会（A会場）・・・・・・・・viii

発表方法と機器についての注意事項など（必ずお読みください）・・・・ix

その他会場案内など・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・x

第 173 回例会参加費：一般会員 6,000 円，学生会員 2,000 円，友の会会員 1000 円，
一般非会員 7,000 円，学生非会員 3,000 円，名誉会員・高校生以下無料

第 173 回例会は事前登録制です。 参加される方は，講演の有無に関わらず，以下のサイトにアクセスして，参加登録とクレジット決済を行ってください（名誉会員，高校生以下は参加登録のみ）。

<https://my-site-108813-105460.square.site/>

参加登録を行うと受領メールが送られますので，**参加者はそのメールかそれを印刷したものを会場の受付に提示して下さい。** 受付で確認の上，領収書兼用の名札を渡します。

* * * * * 2. プログラム 詳細 * * * * *

1月26日 (金)

【13:00-17:00】 東北大学青葉山北キャンパス A会場

シンポジウム「琉球列島の地質と生物相 成立から現在に至るまで」

コンビナー:井龍康文(東北大)・太田英利(兵庫県立大・人博)

琉球列島は九州～台湾間の1,000 km以上にわたる海域に点在する島弧(琉球弧)で、島嶼の数は面積が0.01 km²以上のものに限っても約200に及ぶ。これらの島々には、様々な陸生生物の進化系統で遺伝的、表型的に特異な個体群や固有種が多く見られ、分類学、生態学、生物系統地理学などの研究分野で格好のフィールドとなっている。また列島内の多くの場所ではこうした個体群・種の祖先のものを含む化石・半化石・骨格残骸なども発見されることから生物相の形成過程を多角的に検討する可能性も期待され、調査研究のフィールドとしての学術的価値はさらに高まっている。現在の琉球列島の陸生生物に見られる系統的多様性や遺伝的・表型的独自性は、近年まで、新生代後期以降の島々相互やそれらと周辺の陸域(九州, 台湾, ユーラシア大陸など)との間での陸橋による連結と分断が反復された地史がおもな形成要因とみなされていた(そのような記述は、現在でも散見される)。しかし、1990年代以降に渡海能力の極めて乏しい生物群、とりわけ両生類や多くの陸生爬虫類、それに一部の無脊椎動物の分子系統地理に関する知見が集積されると、更新世以降における大規模な陸橋形成は疑問視され、現在の琉球生物相の形成についての新たな説明仮説が求められるようになってきている。本シンポジウムではまず、琉球列島の地質と生物系統地理や化石に関する最新の知見を概観し、その上でこれらを最大限に矛盾なく説明する新たな総合仮説の構築を試みる。また、今後さらに優良な仮説へと繋げるための地質学、生物学双方の課題とその解決のための研究の方向性や取組みの手法についても検討したい。

13:00-13:10 趣旨説明 井龍康文(東北大)

13:10-13:40 琉球弧の形成と海中に残されたサンゴ礁の痕跡 荒井晃作(産総研)

13:40-14:10 琉球列島の陸棲軟体動物の種多様性と系統地理 平野尚浩(琉球大)

【14:10-14:25】—休憩—

14:25-14:55 琉球列島の陸生脊椎動物の化石と骨格残骸が示唆するもの

高橋亮雄(岡山理大)・池田忠広(兵大・人博)

14:55-15:25 OMSP 仮説—中琉球の地史と生物系統地理の新解釈 渡邊奈々(東北大)

【15:25-15:40】—休憩—

15:40-16:10 OMSP 仮説と宮古諸島の陸生脊椎動物の「謎」 太田英利(兵大・人博)

16:10-16:40 琉球列島の地質と生物相の解明 総括と展望 井龍康文(東北大)

16:40-17:00 総合討論

【18:30-20:30】懇親会（東北大学川内キャンパス「キッチンテラス クルール」）

懇親会は予約制です。参加を希望される方は、必ず事前に下記の懇親会申込用Google Formにて、1月12日（金）までにお申し込みください。参加をキャンセルする場合も1月12日（金）までにご連絡をお願いします。

場所：東北大学・川内北キャンパスの川内厚生会館内の「キッチンテラス クルール」

行き方：(1)地下鉄東西線「川内駅」の「南2出入口」を左に曲がり（階段の上り下りしない）、(2) 建物の間を抜けた突き当たり（“丁字路”）を右に曲がって真っ直ぐ進む、(3) 校門を出る前に左手にある1階平屋建て「川内厚生会館」を目指す。

会費：学生以外 6,000円、学生 4,000円 支払いは当日現金でお願いします。

申込先（google form）：<https://forms.gle/mbzE5Gd7d97YbQUV6>



お問い合わせ先：

高柳栄子（hideko.takayanagi.b4●tohoku.ac.jp：「●」を「@」に置き換えてください。）

1月27日（土）会場：東北大学青葉山北キャンパス A-C会場

【9:30-10:30】 会長講演（A会場）
遠藤一佳「分子古生物学の現状と展望」

【10:30-10:45】 休憩

【10:45-11:45】 学術賞受賞記念特別講演（A会場）
藤田和彦「大型有孔虫と地球環境問題」

【11:45-13:00】 休憩

【13:00–14:00】一般講演 ポスター発表（コアタイム：奇数番号 13:00–13:30, 偶数番号 13:30–14:00）

- P01 出山康代・柴田正輝・碓 京子・湯川弘一 和歌山県中部中新統田辺層群白浜層から発見されたノコギリエイ吻軟骨化石
- P02 近藤征海・田中康平・歌川史哲 福島県いわき市における上部白亜系双葉層群足沢層より新たに産出した海生爬虫類及び硬骨魚類化石
- P03 中島保寿・宇都宮 聡 鹿児島県長島町獅子島の白亜系御所浦層群から産出した日本最古のウミガメ上科 (Testudines: Chelonioidea) 化石
- P04 大橋智之・田上 響 古第三系漸新統杵島層群産骨質歯鳥類下顎化石の再検討
- P05 齋藤北斗・大越 司・プレヴスレン ブヤンバ・マインバヤル ブーベイ・実吉玄貴・高橋亮雄・藪本美孝・石垣 忍・ツォクトバートル ヒシグジャウ モンゴル国東ゴビの上部白亜系バインシレ層より産出したシナムア科魚類の分類学的検討
- P06 島田将徳・プレヴスレン ブヤンバ・マインバヤル ブーベイ・実吉玄貴・高橋亮雄・石垣忍・ツォクトバートル ヒシグジャウ モンゴル国ネメグト層より産出するモンゴロケリス (シチュアンケリス科) の分類学的再検討
- P07 荻野慎諧・坂上莉奈 徳島県勝浦町における夏季恐竜イベント参加者の3年間のアンケート調査分析
- P08 石川亜郷・河部壮一郎・伊澤栄一・柴田正輝 現生鳥類における触覚感受性と三叉神経節サイズとの関係
- P09 水野史博・甲能直樹 現生四足歩行獣から導出された新基準に基づいたパレオパラドキシア類の後肢姿勢復元
- P10 堀 智彦 *Neosaimiri* (霊長目) の臼歯における wear パターンと形成位置
- P11 池上直樹 大型化石プレパレーションラボの管理と安全対策
- P12 丸山啓志 LiDAR センサー搭載のスマートフォンやタブレットを用いたお手軽 3D デジタル標本の作成と活用
- P13 デンジャーフィールド エマ・木村由莉 島嶼化のアナグマたち：前肢および臼歯の機能形態に基づく日本列島に生息したアナグマ属の絶滅種と現生種の差異
- P14 上田裕尋 鳥類の機能形態学的推定に対する生体を用いた検証実験の予察的報告
- P15 四宮七瀬・岡本 隆 *Nipponites* の理論形態モデルの再構築
- P16 御前明洋・岡本 隆・前田晴良 白亜紀後期異常巻アンモノイド *Didymoceras* と *Pravitoceras* の進化過程
- P17 吉村太郎・石寄美乃・遠藤一佳・佐々木猛智 貝殻と外套膜のあいだの空間が生み出す貝殻微細構造の多様性：二枚貝と腕足動物の系統網羅的比較
- P18 石寄美乃・椎野勇太 泥の上の三疊紀腕足動物ディスクナ類：定住様式の革新をもたらす外適応的形質を探る
- P19 廣田結作・菅 敦成・阿部こよみ・石寄美乃・椎野勇太 スナガニはどこにどの方向へ巣穴を掘削するのか
- P20 今井 悟 埋没黒ボク土に見られる生痕化石 *Taenidium* とその古生態：島根県三瓶火山南東山麓の事例
- P21 岸田明生・江崎洋一・竹田裕介・守川翔太・足立奈津子・刘 建波・伊庭靖弘 北中国のカンブリア系張夏層から産するサンゴ *Cambroctoconus* の三次元復元と成長形態
- P22 田中源吾・山内康平・山田勝雅・佐藤慎一 有明海湾奥部の介形虫群とカシラエビ
- P23 久保貴志・庄原化石集談会 広島県中新統備北層群の鯨類に伴うカキ類の古生態と古環境
- P24 酒井佑輔 福井県大野市九頭竜地域の手取層群下部の層序と植物化石群
- P25 山川隆良 石城層における珪化木群の発見と近傍石炭層と比較した化石化過程の考察

- P26 矢部 淳・齊藤 毅・小林真生子・清水道代 中新-鮮新世ブナ属化石 *Fagus protojaponica* の分類学的再検討
- P27 永広昌之・鹿納晴尚 下部三畳系大沢層産新種囊頭類 (*Parisicaris* 属) および Microcarididae 科の属種構成
- P28 唐沢與希・鈴木颯一郎・西 夏輝・二上文彦 相馬中村層群(中部ジュラ系～下部白亜系)産出の絶滅オウムガイ類 2 属
- P29 桃崎瑛弘・前田晴良・伊藤泰弘・大山 望 下部ジュラ系豊浦層群西中山層下位層準におけるアンモナイト化石層序の検討
- P30 吉永亘希・重田康成・前田晴良 白亜紀アンモノイド *Desmoceras (Pseudouhligella) dawsoni shikokuense* の下部セノマニアン階からの産出
- P31 關明日香・ジェンキンズロバート 北海道中川町志文内峠の沢から産出した後期白亜紀材穿孔性二枚貝類 *Turnus* 属の直接的な材食の証拠
- P32 向井一勝・田中源吾 北海道黒松内町より産出した更新統瀬棚層介形虫化石群(予報)
- P33 石野沙季・板木拓也 スライドスキャナーによる珪藻化石観察方法
- P34 武田 与・山田茂昭・千代延俊・浅原良浩・高柳栄子・井龍康文 沖永良部島に分布する琉球層群の堆積過程
- P35 吉部もも・井龍康文 北大東島試錐試料の岩相層序の再検討
- P36 永淵陽也・高柳栄子・佐野勝宏・井龍康文 二枚貝殻に記録された中期～後期完新世における徳之島の海洋表層環境の検討
- P37 川島葉南・高柳栄子・黒柳あずみ・若木重行・木本ゆうな・若公良太・石川剛志・井龍康文 複数の氷期-間氷期におけるルーウィン海流の動態変化とその要因
- P38 幸地 佑・藤田和彦・井龍康文・Marc Humblet 微岩相観察に基づく港川層下部不整合境界における海進/海退の記録
- P39 Ko-Yuan Chuang・浅海竜司・高柳栄子・森本真紀・阿部 理・中森 享・井龍康文 後期完新世の気候にみられる数十年～数年規模変動—喜界島サンゴ化石の酸素同位体比の 237 年時系列からの復元—
- P40 細田茜音・浅海竜司・堀上隼之介・坂巻隆史・丸尾知佳子・新城竜一・Ki-Cheol SHIN・高柳栄子・井龍康文 鹿児島県与論島のサンゴ骨格の化学組成記録による過去 300 年間の水温と塩分の長期変動解析
- P41 斎藤麻琳・浅海竜司・坂巻隆史・丸尾知佳子・高柳栄子・井龍康文 トカラ列島悪石島の硬骨海綿が示す化学組成の長期変動
- P42 堀上隼之介・浅海竜司・細田茜音・坂巻隆史・丸尾知佳子・新城竜一・Ki-Cheol SHIN・高柳栄子・井龍康文 与論島の土地利用変遷によるサンゴ礁環境の長期変動：現生サンゴ骨格の年輪解析からの復元
- P43 小田洸人・高柳栄子・浅海竜司・佐野勝宏・井龍康文 シャコガイ殻の酸素同位体比を用いた同位体温度計—不正確さが生じる要因
- P44 木下峻一・橋本優里・黒柳あずみ・鈴木 淳 高 pCO₂ 環境下での全アルカリ度変化による大型底生有孔虫の石灰化量の変動
- P45 豊福高志・長井裕季子 Cryo-FIB-SEM による殻形成中の有孔虫細胞内元素分布その場観察
- P46 土屋正史・自見直人・美山 透・石村豊穂・藤本心太・波々伯部夏美 ペットボトルキャップに形成された生態系とその由来

高校生ポスターセッション

- HP1 山本花瑛 獣脚類と修飾頭類の声の響き方の推定
- HP2 渡邊百恵・藤生ころも・田島 満・大塚万優・清水祐希・藤澤樹花・上田茉七海 茨城県阿見町の更新統下総層群から産出したウミシダ骨板化石
- HP3 藤井 奏 熊本県に分布する御船層群から産出する巻貝化石
- HP4 高森亜門 微化石による葛生石灰岩の環境推定

【14:15-15:30】 一般講演 口頭発表 1 (A-C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 1 座長: 千田 森	古生態の部 1 座長: 吉田勝彦	分類・古生物地理の部 座長: 伊左治鎮司
A01 陣内香苗・柴田正輝・今井拓哉・Cary Woodruff 上部白亜系ジュディスリバー層(モンタナ州)から産出した“ミイラ化”した <i>Brachylophosaurus canadensis</i> の予察的研究	B01 岡田泰政・小竹信宏 千葉県市川市江戸川放水路の干潟に見られる <i>Piscichnus brownii</i> 様生痕:アカエイの摂食様式とその生物攪拌作用	C01 佐々木猛智・高橋完治 南部北上帯デボン系中里層から発見された吻殻類の新産出記録
A02 黒須弘美・宮田和周・廣瀬浩司・鶴飼宏明・関谷 透 熊本県の姫浦層群下津深江層から産した日本初のティラノサウルス科の下顎骨化石	B02 泉 賢太郎・西澤 輝 堆積物食者の摂食に伴う粒子分配率の理論的考察:生痕化石 <i>Macaronichnus</i> を例に	C02 佐野晋一・リノ ヴァランタン・平岡美侑・堀 利栄 愛媛県西予市三瓶町蔵貫に分布する鳥巢式石灰岩からエピディセラス科厚歯二枚貝密集層の発見
A03 大橋智之・御前明洋・前田晴良 岩手県田野畑村に分布する下部白亜系宮古層群から産出した獣脚類恐竜の趾骨	B03 西澤 輝・泉 賢太郎 生痕化石 <i>Macaronichnus</i> 形成者による選択採餌メカニズム:摂食行動を模擬する理論モデルの構築と解析	C03 伊藤綾花・佐野晋一・伊庭靖弘 赤道太平洋域産ヒップリテス科厚歯二枚貝とその進化史上の意義
A04 柴田正輝 <i>Fukuisaurus tetoriensis</i> (鳥脚類恐竜) の追加標本について	B04 長井裕季子・豊福高志 有孔虫 <i>Spirillina vivipara</i> の殻形成速度とその生態	C04 松原尚志・今野 健 北海道佐呂間地域の中新統知来層の貝類化石群
A05 関谷 透・柴田正輝 福井県勝山市の北谷層から産出した幼体の竜脚類神経弓(予察)	B05 田近 周・Neil Landman・J. Kirk Cochran・西田 梢・白井厚太郎・石村豊穂・杉原奈央子・佐藤圭 基礎代謝からみる白亜紀末の外殻性頭足類の絶滅の選択性	C05 北里 洋・John R. Doran・石丸 隆・谷口 旭「羽田良禾」, 原生生物学のパイオニア

【15:30-15:45】 休憩

【15:45-17:15】 一般講演 口頭発表 2 (A-C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 2 座長: 大橋智之	古生態の部 2 座長: 泉賢太郎	古植物の部 座長: 酒井佑輔
A06 ベンジャミンブリーデン・大山望・真鍋 真・高橋文雄・坂田智佐子 山口県美祿市の上部三畳系桃ノ木層から産出された淡水生サメの歯の再検討	B06 森野善広 上部ジュラ系小池石灰岩の堆積相と生物相(その3): 藻類および被覆性微生物類	C06 齋藤めぐみ・矢部 淳 非海成層の年代推定への淡水珪藻化石生層序の応用
A07 千田 森・藪本美孝 種子島の下部更新統増田層群之山部層から産出したハゼ目魚類	B07 守川翔太・江崎洋一・竹田裕介・岸田明生・足立奈津子・刘健波・伊庭靖弘 カンブリア紀サンゴ <i>Cambroctonus</i> の成長様式の三次元復元—鎖状サンゴ群体の形成要因—	C07 滝本秀夫・大花民子・中島保寿・望月貴史・Julien Legrand・加藤太一・吉川広輔 下部白亜系宮古層群より産した植物化石(予報)
A08 平山 廉・多田誠之郎 岩手県久慈層群産ウミガメ類と本邦白亜紀カメ類の分類学的再検討	B08 安藤寿男・北村孔志・新村敏之 静岡県赤石構造帯の中新統遠木沢層に含まれるカキ化石密集層のタフオミーと古生物地理学的意義	C08 山川千代美・植村和彦・林田 明・同志社大学地学研究会・小枝宏和 新島裏採集の神戸層群産植物化石標本について

A 会場	B 会場	C 会場
A09 半田直人・國松 豊・西岡 佑一郎・日下宗一郎 タイ北東部コラート地域プラプット・サンドピットの中新世サイ科化石群集	B09 吹本 樹・近藤康生・圓谷 昂史・鈴木明彦・池原 実 北海道の更新統馬追層産トウキョウホタテガイの季節的殻成長	C09 山川隆良・山川千代美・佐々木猛智 北浅川河床檜原メタセコイア化石林の 3D モデル化と樹高推定
A10 Michelle Harvell・甲能直樹 東京都狛江市の下部更新統から産出したステラーダイカイギュウ (<i>Hydrodamalis gigas</i> (Zimmerman, 1780))の全身骨格の骨学的記載	B10 伊左治鎮司 手取層群産 <i>Unio ogamigoensis</i> Kobayashi and Suzuki, 1937 の分類学的再検討とその生息環境に関する考察	C10 マヘル アフメド・ルグラン ジュリアン・山田敏弘・小松俊文 微化石からみた日本古生代の古植生
A11 高井正成・タウンタイ・ジンマウンマウンテイン ミャンマー中部のイラワジ層最下部から出土したシカ科化石に関する予備的報告		C11 磯崎行雄・澤木佑介・堤之恭 白亜紀前期の極東アジアにおける初期被子植物の極方向進出

【17:30-17:45】ポスター賞表彰式 (A 会場)

1月28日 (日) 会場：東北大学青葉山北キャンパス A-C会場

【9:30-10:45】一般講演 口頭発表 3 (A-C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物・古生態の部 座長：中島保寿	古環境・生層序の部 座長：池田昌之	形態解析・古生態の部 座長：椎野勇太
A12 築地祐太・柴田正輝・河部 壮一郎・今井拓哉・東 洋一 下部白亜系手取層群北谷層から産出した新たな鳥脚類足印	B11 向井一勝・田中源吾 北海道滝川市より産出した下部鮮新統介形虫化石群	C12 吉田勝彦・畑 憲治・川上 和人・平舘俊太郎・大澤剛士・可知直毅 生態系モデルに進化過程を導入すべきか?
A13 犬塚則久 獣脚類の骨格復元 とくに座位姿勢について	B12 田中源吾・寺尾勇佑 2020年7月九州豪雨以降の砂川河口域の介形虫群の回復過程	C13 生形貴男 アンモノイド殻形状の個体発生変異の収斂と個体発生軌道の多様性
A14 瀬岡理子・松岡廣繁 陸棲肉食哺乳類においては飲水が coprolite 形成に影響することを示す糞石内構造の発見	B13 有元 純・宇都宮正志・田中裕一郎 トカラ列島周辺海域に分布する上部新生界堆積岩の石灰質微化石に基づく堆積年代とその地質学的意義	C14 吉村太郎・太田成昭・佐藤英明・齊藤匠・Jonathan Ablett・Bert Van Bocxlaer ・今井宏明・遠藤一佳・佐々木猛智 なぜ巻貝の結晶は交差板構造なのか?: 貝殻の曲率に応じた格子歪みの可塑性
A15 蔡 政修 更新世の島の生態系に於ける意外なトッププレデター	B14 松崎賢史・上栗伸一・佐川拓也 西赤道太平洋における中期中新世から後期漸新世の放散虫生層序の報告 (IODP Site U1490)	C15 石寄美乃・佐々木猛智 関節構造のない現生腕足動物の殻微細構造
A16 稲葉勇人・村上凱星・佐々木誉人・實吉玄貴・千葉謙太郎・宮地孝明・川上朝子・Khishigjav Tsogtbaatar・Buuvei Mainbayar・辻極秀次 質量分析法による化石残存タンパク質の解析	B15 板木拓也・宮川歩夢・池原 実 深層学習とバーチャルスライドスキャナを用いた放散虫群集のハイスループット自動解析	C16 柳原彩里・田中源吾 上部カンブリア系エイラム頁岩層中の節足動物の殻構造

【10:45-11:00】 休憩

【11:00-12:15】 一般講演 口頭発表 4 (A-C 会場)

A 会場	B 会場
古生態・形態解析の部 座長：田中原吾	古環境・古海洋の部 座長：板木拓也
A17 大西侑生・伊澤栄一・塩見 こずえ・佐野瑞穂・武田航・小山 偲歩・依田憲・河部壮一郎 晩成 鳥における個体発生に伴う脳の 形態変化	B16 中澤 樹・高柳栄子・浅海 竜司・武藤 潤・井龍康文 地質 試料の特性により適した新たな 時間補間法の開発
A18 平田和葉・久保麦野・高井 正成 DMTA を用いたニホンザ ル地域個体群間の食性解析	B17 市村駿汰・高柳栄子・井龍 康文・高橋 聡・大路樹生 中部 蝦夷層群三笠層産二枚貝化石 の成長線解析と酸素同位体比分 析に基づく白亜紀"中期"中緯度 太平洋域の浅海水温の季節変 動
A19 仲井大智 モグラは肩で体 を支えない：組織形態からみる体 重支持機能をもつ骨の評価法	B18 守屋和佳・阿部彩子・太田 亨・窪田 薫・黒田潤一郎・長谷 川卓・長谷川精・樋口太郎 温暖 化極相期における炭素循環フィ ードバックの動態解明
A20 吉澤和子・藻谷亮介 魚竜 型類の最適巡航スピードの推定	B19 池田昌之・一丸友美・樋口 太郎・阿部彩子 白亜紀アジア の生態系変化要因としての大陸 移動と山脈形成
A21 椎野勇太・新田真理 数値 流体解析から読み解く腕足動物 プラチストロフィア類のジグザグ縫 合線	B20 海保邦夫 顕生代大量絶 滅時の気候変化の原因と近未来 の絶滅規模・時期

【13:30-14:30】 化石友の会イベント 普及講演会

稲井層群の古脊椎動物—ひとりぼっちじゃなかった歌津魚竜—

- ・ 講師：中島保寿（東京都市大学）
- ・ 会場：東北大学青葉山北キャンパス理学研究科合同 C 棟 アオバ・サイエンスホール
（最寄駅：地下鉄東西線・青葉山駅北 1 出口）
- ・ 収容人数 117 名（申し込み不要）13:00 開場予定
- ・ 友の会会員に限らずどなたでも無料でご参加いただけます（受付あり）。

***** 3. 発表方法及び機器についての注意事項など *****

<口頭発表をされる方へ>

【重要！】口頭講演はパソコン等持参です！貸出はありません。

- ・接続端子は、HDMIかmini D-Sub15ピン（VGA）の2種類のみです。それ以外の端子の場合はご自身で変換アダプターをお持ち下さい。
- ・WiFiはEduroamのみが利用できます。
- ・休憩時間などに接続状況を確認して下さい。接続作業時間も講演時間に含みます。
- ・プロジェクター画面は原則として4：3画角となります。
- ・デュアル・ディスプレイ設定のノートパソコン（普段、外部モニターと併用しているノートパソコンなど）は、接続前にシングルモニタに切り替えてください。
- ・パソコン等の接続・操作は、発表者ご自身でお願いします。
- ・一般講演の口頭発表時間は15分です（質疑応答、使用機器の接続時間含む）。

<ポスター発表をされる方へ>

- ・ポスターのサイズはA0（横841 mm × 縦1189 mm）が基本です。一発表につき、指定されたボード1面のみをご利用ください。
- ・ポスター会場は主に合同A棟2階ホール、もしくは合同C棟2階ロビーです。貼り付け場所は当日にご確認ください。
- ・ポスターは1月27日（土）の9:00から貼ることができます。また、28日（日）の12:00までに各自撤収して下さい。はがしたポスターはお持ち帰りください。
- ・ポスター掲示用の画鋏は会場で用意します。

会場及び発表方法・機器に関する問い合わせ先（「●」を「@」に置き換えてください）

開催実行委員：鈴木紀毅（sendai_taikai●mbe.nifty.com） Tel: 022-795-6623

浅海竜司（ryuji.asami.b5●tohoku.ac.jp） Tel:022-795-6634

*必ず両名へメール願います。

*メール件名「古生物学会178回例会（東北大）・問い合わせ」

その他

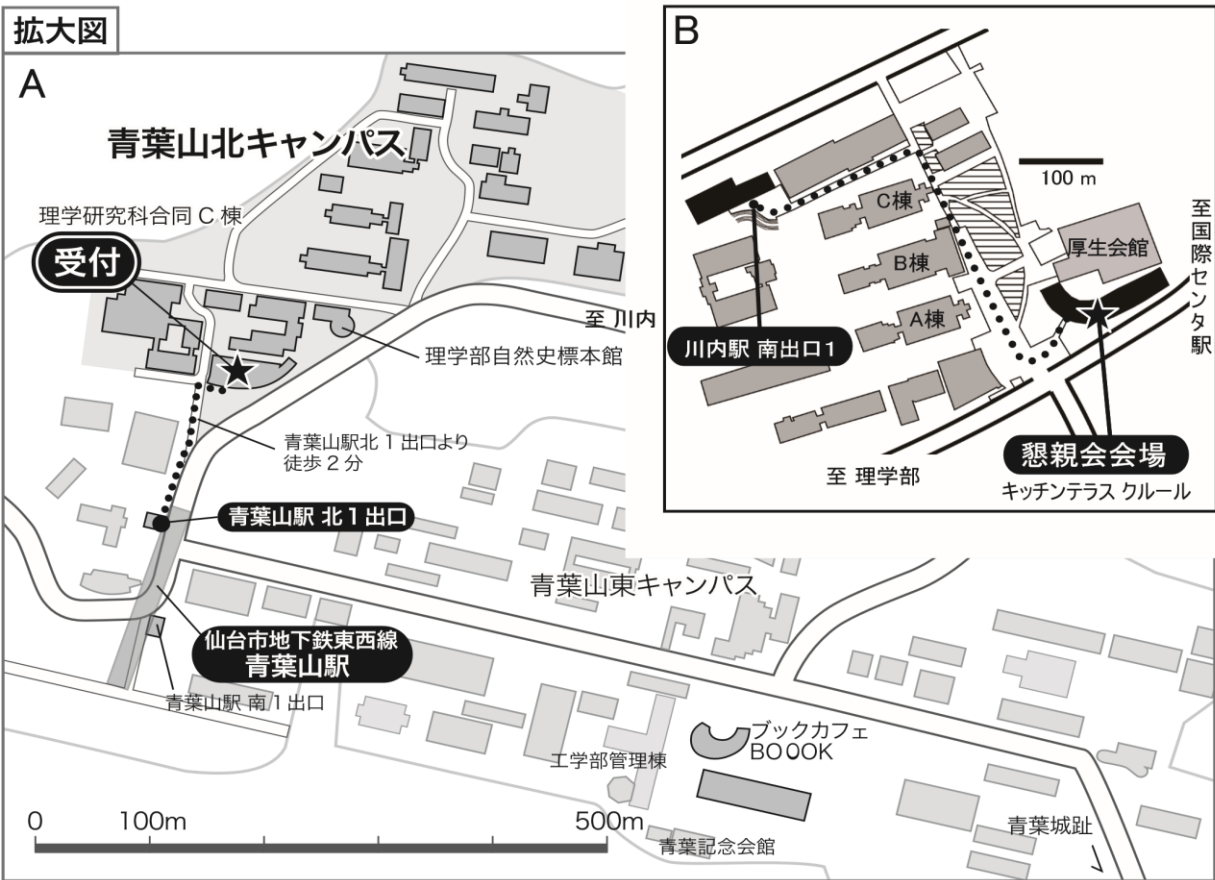
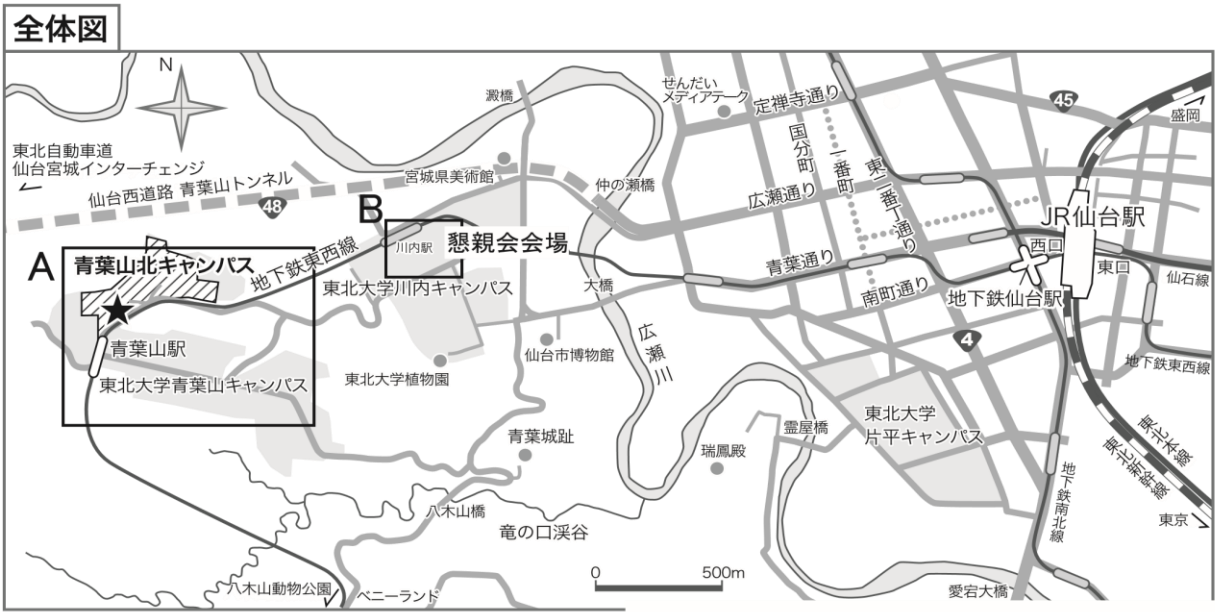
- **ご来場について**：公共交通機関をご利用ください。懇親会を除き、地下鉄東西線・青葉山駅の北1出口（改札を出て左に曲がる）が最寄りとなります。地上出口から会場までは徒歩2分。
- **IC乗車券**：仙台市営バス・地下鉄とも交通系ICカード（PASMO, Kitaca, TOICA, manaca（マナカ）, ICOCA, PiTaPa, SUGOCA, nimoca, はやかけん）が使えます（PiTaPaのポストペイ（後払い）, オートチャージ, 各社ポイントには対応していません）
- **標本展示等希望者**：鈴木紀毅（sendai_taikai●mbe.nifty.com）と浅海竜司（ryuji.asami.b5●tohoku.ac.jp）へ1月12日（金）までにメールにてご相談ください（●を@に置き換えて送信願います）。詳細をお知らせします。メール題目は「古生物学会178回例会・出展」でお願いします。希望数によってはお断りすることもございます。予めご容赦ください。
- **1月26日（金）について**：合同C棟のアオバサイエンスホールのみ出入り可能です。合同A棟の他の部屋（標本展示室）, 合同C棟（会場B・C, 談話室, 臨時託児室）には入室できません。また、授業期間なので廊下等では静粛にお願いします。
- **WiFi**：Eduroamのアカウントお持ちの方はこちらに接続出来ます。それ以外には用意はございません。
- **懇親会について**：本プログラムiiiページ参照。
- **お食事**：会場A, B, C, 談話室, 臨時託児室のいずれも飲食可能です。
 - 1月26日（金）：青葉山北（理学部）キャンパス内で可能ですが、授業期間なのでお昼前後は食堂と購買部の混雑が予想されます。
 - 1月27日（土）：青葉山東（工学部中央）キャンパスにある大学生協の食堂「あおば食堂カフェテリア」のみ可能です（11:30～14:00）。
 - 1月28日（日）：学内の食堂は全部閉店。
 - 1月26日（金）～28日（日）：コンビニは欠品になる恐れがあります。
 - ※セブンイレブン東北大学理学部店（8:00～22:00）会場Aの横。
 - ※ローソンS東北大学青葉山（青葉山厚生会館1F）（8:00～18:00）青葉山駅西すぐ。
- **喫煙**：東北大学の敷地内は建物の内外を問わず、全面禁煙となっています。
- **臨時託児所**：託児申込用googleform (<https://forms.gle/PXHhmYNrUHcJxej27>)にて、12月25日（月）までに、お申し込みください。個別のご要望等は、黒柳あずみ（a-kuroyanagi●tohoku.ac.jp）へメールにてご相談ください（●を@に置き換えて送信願います）。条件によってはご希望に添えないこともございます。



- **盗難対策**：学会開催中の盗難が報告されています。貴重品は各自の責任で管理をお願いします。
- **予稿集について**：第 173 回例会では予稿集の冊子体は配布しません。学会 HP から PDF をダウンロードしてご利用ください。
- **写真およびビデオ撮影について**：発表者の許可なく講演およびポスター発表を撮影することを禁止します。
- **理学部自然史標本館（東北大学総合学術博物館）の見学**：古生物学会の開催期間中，学会参加登録者と，化石友の会のイベントに参加登録した化石友の会会員に限り，無料で観覧できます。受付窓口にて，大会ネームプレートをご提示頂くか，口頭で大会参加者の旨を伝え，受付簿に記帳下さい。開館時間 10:00～16:00 です。
- 第 173 回例会では事前の参加登録と参加費の決済が必要です。i ページ記載の URL から参加登録・決済を行って下さい（高校生以下など参加費無料の方は，参加登録サイトの会計ページではクレジットカード情報の入力は求められません）。

行事係：生形貴男（京都大学）E-mail: psj-meeting@palaeo-soc-japan.sakura.ne.jp

***** 4. 会場案内 *****



■ 学会会場への交通

《地下鉄》
 仙台市地下鉄東西線「仙台駅(T07)」より「八木山動物公園行き」に乗り、「青葉山駅(T02)」で下車(乗車時間 9分、料金 250円)。
 青葉山駅「北1出口」より徒歩 2分。

《タクシー》
 JR 仙台駅西口タクシー乗り場より乗車、所要時間約 15分、料金約 2,000円。

■ 懇親会会場への行き方

- 仙台市地下鉄東西線「川内駅」の「南出口1」から左手に真っ直ぐ進み、突き当たりを右に曲がる。キャンパス敷地つきあたりで左に曲がる。
- 理学研究科合同 C 棟から懇親会会場まで地下鉄で 15 ~ 20 分 (乗車時間2分、料金 200円)。徒歩で下りは 30 分弱 (公道のみ歩行可能)。
- 地下鉄仙台駅 - 川内駅は乗車時間6分、料金 200円。

会場図

